2/24 神戸新聞 夕刊

音モノ語り

わたしの相棒

10

サクソフォン奏者 西本 淳

538

サクソフォンといえば、まずジャズを思い浮かべるかもしれないが、西本淳は日本のクラシック界のトッププレーヤーの一人だ。

驚くべきは変幻自在な音色。目を閉じれば雅楽の笛かと思う音、何かのエンジンを吹かすような音、2人の奏者がいるかのような異質な重音…。ステージから浴びる生音はどれも繊細で濃密で、多彩な奏法で展開される現代曲には小説を読むような楽しさがある。

教え子たちはよく柔らかで温かな音を目指すけど、硬く汚い音が悪いわけじゃない。僕の楽器は中学生も持っているほど標準的だけど、最も音色を変えやすい。微妙な息の入れ方の違い一つにすぐ反応してくれる。高価な金メッキのものもあるけど、その華やかで艶のある響きは僕が求める表現の一つでしかない

西本は高音域のソプラニーノから低音域のバリトンまで5種類の愛器を使い分ける。中でも最も多用する中音域のアルトがフランスの老舗メーカー「セルマー・パリ」社製「ジュビリーSA―80Ⅱゴールドラッカー」。真鍮製の管体にラッカー塗料がかけられている。職人の手で作られる楽器ゆえに、同じ会社の同じシリーズであっても個体差がある。西本は約2年前、約80本から3カ月をかけて、その1本を選び出した。

条件は、まず音色が明るいこと。暗い楽器は暗いままだけど、明るい楽器なら暗い音も表現できると思う。それは自分の言葉をすべて伝えてくれる潜在力になる。次は高音から低音まで、品良く滑らかに鳴るか。あとは直感です。いい楽器は吹いた瞬間、何かがポンと違う

多くの奏者がそうであるように、西本も中学校の吹奏楽部で吹き始めた。専門的な顧問もおらず、教則本で独学した。どうすれば運指がスムーズか、息の量や方向、形、質感は…。自力で考え、練習した。

本当は打楽器のティンパニーに憧れたけれど先輩がいて。そうしたら見た目の格好良さで母親に勧められて。田舎育ちで、ハングリー精神だけでがむしゃらに吹いていた

サクソフォンは19世紀半ば、ベルギーのアドルフ・サックスが発明し、フランスの作曲家たちが作品に取り入れた。息で薄い板状の「リード」を震わせて音を出す木管楽器に属し、放物線を描く円錐管からの響きは、金管楽器の揺かしさと木質の温かさとの間の“新しい音”だった。

今や軽音楽を含むさまざまな音楽シーンで使われるが、クラシックの楽器としては歴史が浅く、オーケストラの曲に登場する機会は多くない。有名なのは、フランスの作曲家ラベルのバレエ音楽「ボレロ」やビゼーの「アルルの女」などで、日本では正規の楽団員ポストはなく、それらの曲目がかかる際に客演する。

NEXTに動画

「演奏には人間がそのまま出るので嘘ないといけないですね」愛器を手に語る西本淳＝いずれも神戸市中央区東川崎町1、神戸新聞松方ホール

微妙な息遣いにすぐ反応

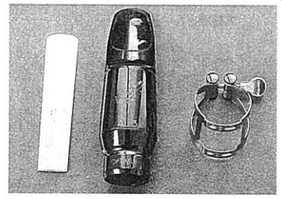
仏・セルマー・パリ社「SA―80Ⅱアルト ゴールドラッカー」

愛している曲ですか。むしろサクソフォンが出てこない曲です。特にドイツのブラームス作品には、内に秘められた情熱を感じて涙が出てきます。僕はそこに嫉妬し、同時に心から感動し、尊敬している。レパートリーが多い近現代の曲にはそこまで感情移入できないけれど、前衛的な現代曲には技巧が凝らされていて、とても興味深いです

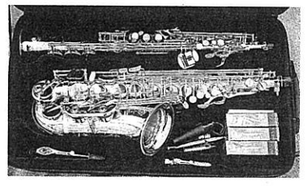
昨年、リサイタルで初めて作品を委嘱した。作曲家とともに曲を進化させていく過程を経験し、その面白さを知るとともに、後世に作品を残す使命感も芽生えた。

音楽には苦しめられたことも救われたこともある。正直、ほとんどが苦労ばかりで、喜びは1パーセントぐらい。でもそれがかけがえのないことも知っているから。中学時代に何となく手にした楽器だったけれど、目の前のことを精いっぱいして、豊かなアイデアで可能性を広めたい。大きな野望を抱くほうではありません。人生を終えるとき、音楽家として生きて良かったなと思いたいです

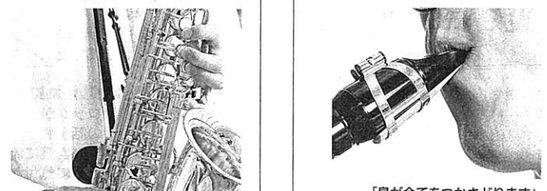
（記事・松本寿美子、写真・後藤亮平）



吹き口に装着するリード（左）、マウスピース（中央）、それらを留める金具リガチャーのバランスが重要



ケースに収めたソプラノ（上）とアルトサクソフォン



「息が全てをつかさどります」

標準キーの数は23個

聴く

CD

□「和樂」日本の民謡、吹奏楽の名曲など（西本が参加する「ブルーオーロラ・サクソフォン・カルテット」）（3240円）

□「ブルー・バッハ」すべてバッハ作品（同）（3000円）

□「ファースト・ブルー」バルトーク、チャイコフスキー、ドボルザーク作品など（同）（3000円）

＝料金は税込み＝

にしもと・じゅん 1976年生まれ、岡山県出身。大阪音楽大学を首席卒業、同大学院修士課程修了。2003年にノナカ・サクソフォン・コンクール・クラシック部門1位、04年に松方ホール音楽賞で奨励賞。坂井時忠音楽賞。日本ウインドアンサンブル首席コンサートマスター。大阪音楽大学特任准教授。相愛大、武庫川女子大学講師。神戸市中央区在住。

◇第4土曜に掲載します。